

平成 28 年度 山梨県南都留地域教育フォーラム提案書

第 4 分科会

公益社団法人 富士五湖青年会議所
ゆめいく委員会 委員長 宮下 清太郎

公益社団法人 富士五湖青年会議所 ～ 富士五湖地域における青少年育成活動 ～

1, 公益社団法人「富士五湖青年会議所」とは

富士五湖地域に住む、品格のある 20 歳から 40 歳までの年齢制限を設け、青年（男女問わず）であれば、個人の意志によって入会できる団体です。本団体は、青年の真摯な情熱を結集し社会貢献をしていくことを目的に組織された青年のための団体であり、常に組織を若々しく保ち、果敢な行動力の源泉となっています。

各青年会議所の理事長をはじめ、すべての任期は 1 年に限られます。会員は 1 年ごとにさまざまな役職を経験することで、豊富な実戦経験を積むことができ、自己修練の成果を個々の活動にフィードバックさせていくことができます。

青年会議所における、さまざまな実践トレーニングを経験したことにより、所属青年達はもとより、OB 達も含め各界で社会に貢献しています。例えば、国会議員をはじめ、知事、市長、地方議員などの人材を輩出、日本のリーダー、地域のリーダーとして活躍中です。



2, 公益社団法人「富士五湖青年会議所」の考え方

(1) 「綱領」より

われわれ Jaycee は

社会的・国家的・国際的な責任を自覚し、志を同じうする者、相集い、力を合わせ青年としての英知と勇気と情熱をもって明るい豊かな社会を築き上げよう

(日本青年会議所)

(2) 「ゆめいく委員会 基本方針」

次代の富士五湖地域を担う子供たちが夢を描き続けられるように、個々を輝かせることで自助と自立の心を開花させ、生き活きとした社会を創造する。

(2016 年 青少年委員会)

3, 富士五湖地域における青少年育成活動

(1) わんぱく相撲(継続事業)

わんぱく相撲は、小学4年生から6年生が参加し、日本国内200地区(主催青年会議所単位)の予選大会から勝ち上がり、東京・両国国技館で決勝にあたり全国大会が開かれる、小学生対象で最大規模の相撲大会のことです。毎年4月から、その地区ごとの予選大会が始まります。地区大会と呼ばれるのは、各地方の青年会議所が中心になって行われています。

地区大会で勝ち上がると、都道府県の代表選手に選出され東京の両国国技館、大相撲と同じ土俵の上で、各学年のトーナメント形式の取組が行われます。子供たちの心身の鍛練と健康の増進を目的として、身近に行えるスポーツとして地方大会からの参加者は、約4万人。まさに、日本の小学生力士の晴れ舞台なのです。

①わんぱく相撲富士五湖場所

本大会は、日本の歴史ある相撲を通して青少年の礼儀礼節や勝手も負けても相手を思いやる心を育成する事業として、富士五湖青年会議所では今年で20回目の大会を迎えました。今年は記念大会として、各官公庁の協力のもと、元大関である小錦氏を招き大会を行いました。小錦氏から礼儀礼節や相撲の基本動作の指導を受け、最後に小錦氏から夢や大切なことの話や質疑応答を行いました。また、対戦した選手同士で手形をとりメッセージを交わし交流を深めました。



②わんぱく相撲全国大会

富士五湖場所の予選会で勝ち抜いた4・5・6年生が全国大会に出場することになります。それに向け、「忍野相撲教室」や「都留興譲館高校の練習」に参加し、心と体を鍛えることになります。全国大会に参加することを通して、多方面の方との出会いがたくさんあり、礼儀礼節としての挨拶や態度を学ぶことができます。また練習後には、出場選手同士で振り返るシートを使って良かった点や反省すべき点を学び、技術の向上が図られます。

(2) みらいく～選挙って、なぜするの (2015年事業)～

子どもに対して、個人の意思を社会に反映させる方法を学ぶ機会を提供することによって、未来を描きながら政治参画できる社会を築くための一助とすることを目的としてこの事業を行いました。富士五湖地域の中学生を対象に、富士五湖青年会議所会員が「政治参画プログラム みらいく」を自ら学びトレーナーとして伝える立場に立ち、保護者と中学生が共に参加し、選挙のしくみを学びました。本事業には、地元選出の国会議員にも参加していただき、講話をいただくことができました。

(3) 『育ボスってなに?』～育児と働く環境について考えよう (2015年事業)～

行政、民間企業、地域住民により「育児」に対して考える場を提供することにより富士五湖地域が子育てしやすい環境への一助とすることを目的として行いました。男女共同参画推進会議の皆様と協力し「育ボス」について富士五湖青年会議所会員が自ら学び、会員自身で講演会を行います。地域の経営者、企業の管理職に参加していただき職場の実態や取組の発表を行い、また子育て世代の父親、母親に参加していただき実際にどのようなことが求められているのか意見を聞き、今後の計画についてのディスカッションを行います。「くるみんマーク (子育てしやすい企業)」の認定企業に参加していただき取組についての発表をしていただきました。(県内認定企業9社、富士五湖地域はなし)

(4) わくわくワーク～はたらくよろこびを体験しよう in 富士急 (2015年事業)～

子供たちが職業体験を通じ、自分の夢や希望を抱いていただく一助とし、大人は子供のために思い学び、親として何を考え行動すべきかを考える一助とすることを目的として行いました。富士急ハイランドリゾート周辺施設を利用し、小学1年生から6年生を対象に職業体験を行い、大人が子供のために親としての心構えを学び、親子で参加できる共同アトラクション (おやこ de かんらんしゃ) を行う。会員が職業体験の打合せを行う中から各職業の感動体験や苦勞を学び、その思いを職業講師から子供たちに伝えていく事を目的としました。



(5) ゆめりんぴっく～かくれた能力を発見しよう～ (2016年 事業)

子供たちが様々な能力を発見し、自分の能力に自信を持ち、また、お互いの能力とふれ合うことで個性を認め合える心を育成することを目的として行いました。子供たちが自然に持つ能力を最大限に発揮できる10種類の種目を5つの能力系に分けて実施する。参加人数により、グループに分かれて会員が誘導し、各種目を体験する。記録表を持って第1部・第2部に分かれて挑戦し、第1部で、まず自己記録の計測をする。第2部に挑戦する前に自己記録更新の方法を考える作戦タイムを行い、その後、自己記録の更新に挑戦する事で目的達成を図りました。



(6) わが子を『メシが食える大人』に育てる～親だからできること～

(2016年 事業)

自ら考え行動する青少年の育成を図るため、親たちが家庭教育に対する心構えと子供への伝え方を学び実践する機会とすることを目的として行いました。カリスマ塾教師として人気のある高濱正伸氏を富士吉田市立吉田小学校体育館に講師として迎え、わが子を「メシが食える大人」に育てるための手法について90分の講演会を行いました。講演会に参加した人たちに、この講演で学んだことの中から、自身の子育てに活かせることを「約束カード」に記入していただき、大人たちが成長できる機会となりました。

4, むすびに

公益社団法人富士五湖青年会議所では、地域の関係団体と連携を図りながら、今まで挙げてきたような事業を行うことを中心として、青少年の育成活動と大人への啓発活動、また本会議所の会員の資質の向上を図ってきています。

久しく叫ばれている課題ですが、地方で生まれ育った多くの若者が、都会に出てしまい、自分自身の地域で貢献していこうとする若者が少ない現状にあります。私どものように地域に残っている者たちが中心となって、青年会議所という組織の中で、これからも地域に向き合い、青少年の豊かな成長と大人への啓発活動、さらに地域の活性化をめざして活動していきたいと考えています。本会議所の会員拡充も課題の一つです。今回の提案を機会に本会議所への御理解をいただければ幸いです。ご静聴ありがとうございました。